

# 臨床研修修了にあたり

## 臨床研修修了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 永島和裕

この度、歯学部ニューズ原稿依頼を賜りましたAコース歯科研修医永島和裕です。僭越ながら表題について執筆させていただきます。駄文ではございますが、お付き合いいただけると幸いです。

執筆しております現在は11月ですが、此処新潟には冬の足跡が一步一步近づきつつあるのを、身をもって感じております（今大学で原稿を書いています、本音を言うと、寒いので一刻も早く帰宅して炬燵でぬくぬくしたいです）。思い返すと昨今の頃は、国家試験勉強をしていたのだと思うと、時の流れる速さには驚かされます。藤井先生が言ったとおりです。

前置きが長くなりましたが臨床研修修了にあたり私が感じたことを書き連ねていこうと思います。

4月、我々は歯科研修医として新たな門出を迎えました。期待と不安が入り混じりながらではありましたが、私の場合、期待のほうが大きかったように思います。というのも、本学の研修プログラムは診療参加・実践型を特徴としているためです。昨年1年間新潟大学での臨床実習を終えたときに私が持った思いは、もっと患者さんのために上手く、そして患者さんに負担をかけないような医療提供ができるようになりたい、というものでした。国家試験の勉強中もペンではなく、タービンを持ちたかったぐらいです。それは過言かもしれませんが、実際に臨床の現場で経験を積み、経験豊富な上級医の先生方から直接指導を受ける機会がある、これほどに恵まれた環境で学び、働けることは私にとって、この上ない喜びでした。

Aコースの研修は30人程度の患者さんの治療計

画を立て、自らの手で治療を行います。その過程で時に研修医の同期に意見をもらったり、時に上級医の先生方にご指導いただいたりすることで、自分自身の知識や考える力をブラッシュアップできたと思います。

思い返すとAコースではともに学び、支え合える同期の存在は非常に大きかったなと思います。診療で上手くいかないときは励まし合い、どうすれば上手くいったのかを一緒になって考えてくれました。これからも同じ歯科医師として共に前へ前へ進んでいきたいです。正に、振り向くな後ろには明日はないから前へ前へ状態です。

また、大学院・レジデントの先生を含め、上級医の先生方には感謝してもしきれないほどにお世話になりました。治療手順、治療選択の考え方をはじめとして沢山のことを教えていただきました。たまに愚痴をこぼしても、親身になって話を聞いてくださいました。この恩を返すとすれば、今後私たちが先生方から教えていただいたことを生かして、患者さんに最善の治療を提供することなのかなと思います。

最後になりますが、この1年間で指導いただきました藤井先生をはじめ、歯科総合診療科の先生方、同期のみんな、自分をここまで支えてくださった沢山の方に深く御礼申し上げます。



指導医の誕生日にて  
筆者は左から2番目

## 臨床研修修了にあたり

### B2コース臨床研修歯科医 小林水輝

この度歯学部ニュースを執筆させていただきます、本学51期生の小林水輝です。大学卒業後は四月から新潟市民病院にて半年間、十月からは冠ブリッジ診療科にて臨床研修を受けさせて頂いております。残すところ三分の一となった研修生活を振り返ると、改めて歯科医療の面白さ、また奥深さを実感する日々だったと強く感じます。

前半の研修先の新潟市民病院では、医科歯科連携を主軸とした周術期治療や、入院患者さんの歯科治療、また救急外来での口腔外科的治療など様々な症例を担当させて頂きました。臨床の現場は目まぐるしい程のスピード感で、学生実習の頃とは必要とされる速度もクオリティもまるで違っていました。「外来にいる時はとにかく無駄な時間をなくそう」「同じことを五分トライするのはやめよう」と決めて診療し、質の面では自分が抜歯した歯を石膏に植えて模型を作り、昼休みに冠除去や形成、根治、抜歯の練習をしたり、診療一つずつを指導医にフィードバックしてもらったりして研鑽を積みました。自分の手が想像している通りに動き、頭で考えたことと目で見ている状況と手の動きが全て一致して抜歯が出来た時の感覚は、何ものにも代えがたい達成感でした。

また患者さんにとっては私が研修医であることは関係なく、担当する以上は単なる主治医なのだという自覚も、自分の責任感を育ててくれたように思います。「最初の半年なんかどこに行ったって勉強になる」と思いながら始まった半年間でしたが、終わってみると「ここだったからこそ学べたことが沢山あった」と胸を張って言える、有意義な研修生活でした。

そんな思いを抱えながら大学病院に戻り、冠ブリッジ科での研修が始まりました。冠ブリッジ科では指導医は一人ではなく、症例ごとに異なる先生方が担当し相談に乗ってくださいます。技工物についてなどの初歩的なことから症例検討の資料作成までしっかりと見て頂けるので、日々心強さを感じながら診療に励んでいます。

口腔外科症例がメインで、一般診療も入院患者さんの一時的な治療が主体だった半年間とは異なり、初診から長期間の治療計画を立案する大学での診療はまた違う面白さがあります。経過観察とするか治療を開始するか、どういった補綴物を入れるか、この患者さんの治療ゴールはどこなのか……選択肢があればあるほど悩み、その中からベストを選び取って行くのはとても難しく勉強になります。

まだまだ始まったばかりの歯科医師人生ですが、いつか振り返った時に「初心に帰らねば」と思えるような初心を作っている最中です。尊敬する先生方にご指導頂きながら、残りの研修期間も有意義に過ごしたいと思います。

最後まで読んで頂きありがとうございました。



前期協力型施設の新潟市民病院にて  
撮影時のみマスクを外しました